

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 八頭高等学校

|      |                |     |           |
|------|----------------|-----|-----------|
| 重点項目 | スポーツ・文化芸術活動重点校 | 提出日 | 令和5年4月28日 |
|------|----------------|-----|-----------|

|  |   |
|--|---|
| 1 学校目標   |   |
| <p>生徒信条「真摯明朗」「克己盡力」の校風を継承し、素直で明るく、心身共にたくましい人材の育成</p> <p>(1) 授業に集中</p> <p>①高校生活や授業におけるマナーの徹底。</p> <p>②全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的にALやICTに係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。</p> <p>③一人一台端末の効果的な活用と、新学習指導要領、特に観点別評価の導入について円滑に対応する。</p> <p>(2) 行事で団結・部活は熱中</p> <p>①本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティを育むとともに、地域から信頼される学校作りを行う。</p> <p>②生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。</p> <p>(3) 進路に挑戦</p> <p>①基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。</p> <p>②多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。</p> |   |
| 2 重点項目に係る目標・成果   |   |
| 目標   | 成果  |
| <p>(1) 学校と部活動の両立を通して八頭高生らしい態度を育成する。</p> <p>(2) 運動部活動、体育類型の活性化によって優れたアスリートを育成する。</p> <p>(3) 文化部活動の活性化によって創造性豊かな人材を育成する。</p> <p>&lt;数値目標&gt;<br/>次の部活動について、全国大会への出場を目標とする。(実人数80名)<br/>男子ホッケー部・女子ホッケー部(上位入賞)、陸上競技部、剣道部、柔道部、書道部、放送部</p>   | <p>全国大会出場は7つの部活動となり、実人数87名が出場した。男子高校駅伝では悲願の初出場を果たすことができた。放送部及び書道部では、高総文祭以外の大会等において輝かしい成果を収めた。</p> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>陸上競技部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子全国高等学校駅伝競走大会初出場</li> <li>・都道府県対抗男子駅伝出場(2名)</li> </ul> <p>男子ホッケー部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高等学校総合体育大会第3位<br/>大会優秀選手に3名選出。</li> <li>・全国高等学校選抜大会第3位<br/>大会優秀選手に3名選出。<br/>うち1名は、2022年ユーズ日本代表選手(U-18)に選出されるとともにU-17の主将を務めた。</li> </ul> <p>女子ホッケー部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高等学校選抜大会出場</li> </ul> <p>卓球部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高等学校総合体育大会出場(男子個人1名)</li> </ul> <p>柔道部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高等学校総合体育大会出場(女子個人2名)</li> <li>・全国高校選手権大会出場(女子個人3名、うち1名は無差別級第5位)</li> </ul> <p>放送部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高等学校総合文化祭出場(アナウンス部門1名、ビデオメッセージ部門1名)</li> <li>・全国高校放送コンテスト出場(アナウンス部門1名、番組3部門6名)</li> </ul> <p>書道部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高野山競書大会(全日本書道連盟賞(6位相当)1、高野山協会賞(10位相当)1)</li> <li>・全国高校生大作書道展(大作優秀賞)</li> <li>・全国公募書道展「放哉を書く」(鳥取県教育長賞(第5席)、鳥取市教育長賞(第7席)、秀作2、佳作1)</li> <li>・国際高校生選抜書展(入選5)</li> </ul> |

### 3 実施事業

#### 【高等学校課事業】

##### ○外部人材活用事業（社会人講師活用事業）

- ・ウェイトトレーニングの理論と実践（11月10日）  
→とっとりまなびや園の 赤穂 弘樹 氏を講師として招聘。フリーウエイトによる理論と実際を学ぶことにより、最先端のトレーニング理論と方法を身につけることができた。スポーツを科学的に分析する視点を養成し、自身のパフォーマンス向上と、将来の指導者候補として理論と指導能力の基礎を養うことができた。
- ・エアロビックダンス講習会（12月9日）  
→Fitness Ja-んぐる代表の 田島 美佳 氏を講師として招聘。ストレッチ、ウォーキング、ステップを交えながらエアロビックダンスを学び、運動の楽しむ方法やリズム感を習得した。また、筋力トレーニングについても学んだ。

#### 【独自事業】

##### ○体育類型活性化プロジェクト

- ・臨海実習（7月6日～7月8日 2泊3日）  
→岩美町陸上の嵐ヶ浜海水浴場において実施し、水泳技能の他にも救急法や水上安全法など、体躯類型しか体験できない学習も行った。
- ・コンディショニング講習会（6月2日、3日）  
→日本オリンピック委員会強化スタッフの 澤田 勝 氏を講師として招聘。日頃のトレーニングとコンディショニングのかけ算がパフォーマンスであること、コンディショニング向上がより高いパフォーマンス発揮につながることの重要性を学び、自己管理能力が育成された。
- ・バランス改善エクササイズ講習会（10月13日、14日）  
→日本オリンピック委員会強化スタッフの 澤田 勝 氏を講師として招聘。オリンピック選手も実践しているバランス能力向上のためのトレーニングを学ぶとともに、フィジカルパフォーマンステストを行うことで自身の能力を知り、新たな発見ができた。

##### ○「八頭高愛し愛され運動」の推進（地域貢献活動） ※9年目

- ・地域清掃活動（1回目：6月10日、2回目：10月31日）  
→通学路約1.5kmの清掃活動（郡家駅、八頭高前駅、八頭町役場等周辺）。  
→1回目：346名、2回目：198名の計544名参加（前年比38名増）。
- ・書道パフォーマンス（書道部）  
→若桜学園10周年事業にて書道パフォーマンスを実演。

※介護老人施設きたやまボランティア（執行部）や、吹奏楽部、茶華道部、家庭クラブ等の部活動による地域に出向いての交流は、新型コロナウイルス感染症の流行により中止した。

### 4 総合所見（成果・評価）

- 競技力向上につながるさまざまな要素を多方面から学び、部活動だけでは身につけることができない取組を実施することができた。生徒や顧問は、講習会等で得た知識や技術をより高い意識で継続させ、全国大会等で活躍する結果となっている。
- 様々な地域貢献活動をとおして、多くの生徒が地域への理解を深め、コミュニケーション能力や他者との協働力の育成に大いに役立っている。また、生徒会執行部員においては、地域連携の中核として必要な行動力や資質を養うことに寄与している。
- 諸団体が主催・募集するボランティア活動への参加希望者は増加しており、生徒の地域貢献に対する意識が定着してきている。
- 一方で、ボランティア活動は、部活動単位での参加に依存しているのが現状であるため、今後は生徒が取り組みたい企画を共に考えていく必要がある。

※枚数任意